



凡事徹底

当たり前のことを当たり前に

蕨市立第二中学校
学校だより
令和7年度
第9号(1月号)



「逆転」を支える準備の力

校長 椿 智絵

新年あけましておめでとうございます。令和8年の輝かしい新春を、皆様健やかにお迎えのこととお喜び申し上げます。

さて、今年のお正月も日本中の注目を集めた箱根駅伝。特に青山学院大学が見せた、歴史に刻まれるような大逆転劇と新記録での総合優勝には、多くの人が胸を熱くしたことでしょう。

今大会、青山学院大学は往路の序盤こそ苦戦を強いられましたが、各区の選手が少しづつトップとの差を縮めてゆき、「山登り」の5区で大逆転をしました。冷たい風が吹き荒れる箱根の険しい急勾配を、まるで平地を走るかのような軽快な足取りで駆け上がっていく選手の姿に、私は一人の駅伝ファンとして深い感銘を受けました。トップとの差を鮮やかに覆し、往路優勝、そしてその勢いのまま新記録での復路優勝、総合優勝へと繋げたあの走りは、まさに「不撓不屈」の精神そのものでした。

原晋監督は、優勝インタビューで次のような言葉を残されました。

「『できない理由』を探すのではなく、『どうすればできるか』を考え抜く。その準備の質が、逆転の1秒を生むのです。」

この言葉は、中学生の皆さんにとって、非常に大切な示唆を含んでいます。

私たちの日常には、困難や壁がつきものです。勉強が思うように進まない、部活動でレギュラーになれない、人間関係に悩む……。そんな時、つい「時間がないから」「才能がないから」「周りがこうだから」と、自分の外側に「できない理由」を求めてしまいがちです。しかし、箱

根の山を制した選手たちは、どんなに厳しい状況でも「今、自分に何ができるか」を問い合わせ、緻密な準備を積み重ねてきました。

原監督はこれまで「箱根駅伝は人生の縮図である」と説いてきました。目標を掲げ、それを達成するために逆算して今日一日の行動を決める。青学大の強さは、単なる根性論ではなく、徹底した「自律」と「データに基づいた準備」にあります。

生徒の皆さん、皆さんの前にも「5区の山登り」のような急坂が現れるかもしれません。特に3年生にとっては、進路決定という大きな山場が目前に迫っています。また1、2年生にとっても、目の前のスキービング学習や鎌倉校外学習の取組と共に、新学年への準備という大切な時期です。

たとえ今、目標との距離があったとしても、決して諦める必要はありません。青山学院大学の逆転劇が教えてくれたのは、最後まで自分を信じ、正しい努力と準備を続けた者にのみ、勝利の女神は微笑むということです。

令和7年度も残り3ヶ月となりました。まとめの学期を、互いに励まし合い、切磋琢磨しながら、一人一人が自分の「新記録」を目指して走り抜いてくれることを願っています。

本年も、生徒たちがそれぞれの夢に向かって「力強い足取り」で歩んでいけるよう、教職員一同、全力で教育活動に邁進してまいります。本年も変わらぬご理解とご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願ひいたします。



《学校教育目標》

自ら学び、深く考える生徒 (知)
心豊かで、思いやりのある生徒 (徳)
たくましく、健やかな生徒 (体)

蕨市立第二中学校

電話 : 048-443-2670 FAX : 048-443-2671
URL : <http://www.warabi.ne.jp/~warabi-2/>
e-mail : warabi-2@warabi.ne.jp